

- | | |
|--|----|
| 1. PERSON 江戸中期の石門心学の祖。丹波の農民から京の商人になり、商人の道と人の道を求めた思想家。 | 1 |
| 2. 石田梅岩の心学で、陽明学の心学と区別するための呼称。 | 2 |
| 3. 石田梅岩が説いた商人の道で、売利を天理として肯定した言葉。 | 3 |
| 4. 石田梅岩が説いた商人の二つの中心的な徳目。単なる節約ではない物と人を有効活用する原理と、正当に利益を上げる互助と公正の原理。 | 4 |
| 5. BOOK 石田梅岩の主著で、商人の道を問答形式で説いたもの。 | 5 |
| 6. PERSON 江戸中期の思想家で、外国の研究者が「忘れられた思想家」と評した独特の農本主義者。大館（おおだて）の農民から江戸の医者に。 | 6 |
| 7. 安藤昌益の説く、農本主義に基づく反封建的ユートピア社会。 | 7 |
| 8. 安藤昌益の説く、武士が農民を支配する封建的身分制社会。 | 8 |
| 9. 安藤昌益の説く、自然世の自給自足の生活。よって、士・工・商を「不耕貪食（ふこうどんじき）の徒」として批判。 | 9 |
| 10. BOOK 安藤昌益の主著で、身分を否定し男女平等を唱えたもの。語義：「自然の真の営みとは、活真（万物は互いに関わり合って生成と運動）」 | 10 |
| 11. PERSON 江戸末期の農政家。小田原の農民出身だが藩政に携わり、幕臣にもなって荒廃した農村を復興。 | 11 |
| 12. 二宮尊徳が説く、自然の力と人間の努力が相まって農業が成り立つとする思想。 | 12 |
| 13. 二宮尊徳が説く、今の自分は、天地・君・親・祖先などの広大な徳のおかげであると自覚して、それに報いることが大切であるとする思想。 | 13 |
| 14. 二宮尊徳が説く、各人の経済力に応じて合理的な生活を設計すること。 | 14 |
| 15. 二宮尊徳が説く、儉約によって生まれた余剰価値を、互助的融資や非常時のために備蓄することで、社会の生産力を拡大すること。 | 15 |

T. Q. 「江戸時代の農民にとっての昌益と尊徳とは？」

T. A.

安藤昌益は「法世」を排して、全ての人々が農耕を基本とする平等な「自然世」に復帰しなければならないと説き、さらに自給自足が重要であるとして士・工・商を批判した。二宮尊徳は、農業は自然の営みである天道と主体的な人間の働きである人道の調和が必要で、報徳思想を展開し分度と推譲を唱えて農村の救済を図った。